

アラビアの話 その2

西アジアから北アフリカにかけてアラビア人が支配している国々の多くは、前回少し触れましたが、部族が社会生活の基本単位となっています。国家の前に先ず部族があるので、国の内部では友好部族と敵対部族の争いが起こり、利害関係が複雑で、外部からはまとまりのない分裂国家のように見えますが、ひとたび外敵がやって来たりすると団結して立ち向かう傾向があります。スポーツ特にサッカーでは財力に物を言わせて優秀な選手を集め訓練し、アジアの中では結構強いのですが、国際試合では国中あげて激しい応援をします。

アラビ人自身が言ってますが、このような時だけ国を意識し、ふだんの生活の価値基準は先ず家族、次に親族、次に同一部族と優先順位があるようなので、会社の無断欠勤や他との約束を守らなくても平然としている事が多いのです。厳しい気候風土で生きていく為に長い間に蓄積された知恵のようです。

イスラムの教えが社会生活の基本になっている為、異教徒の日本人から見ると奇異な事が沢山あります。「豚の肉や脂肪を口にしてはならない」という事もその一つですが、7世紀頃のアラビアで豚が原因で集団食中毒や伝染病が流行ったから禁止したとされています。

「酒を飲んではならぬ」という事も暑く乾燥した土地では体が持たないからとか、原料になるブドウや麦・米が多く輸入の貴重品だったからとか言われていますが、現在厳密に禁酒している国はサウディアラビアとクエートの二カ国だけです。しかしこれも建前で両国の若者達は隣国や遠く東南アジア・ヨーロッパに行き、飲みまくり問題を引き起こしています。皮肉な事に肝臓病で死亡するアラビア人は結構居るようです。

「4人まで正妻を持っても良い」という事も部族闘争に明け暮れた7世紀当時戦で倒れ数多くの寡婦とその子供らの面倒を見るため、イスラムの創始者ムハンマドが、平等に扱うならという条件で認めた一種の社会保障制度だったようです。一説には砂漠で遊牧生活を送る夫人が妊娠出産すると、食事や他の子供の面倒を見るために女性の手がどうしても必要なので実生活の追認をしたとも言われています。現代では女性の教育も進み、財力と体力を持っただけでは家庭円満にするのは難しいので、一人の奥さんを持つ人が増えているようです。会社にも二人ぐらい奥さんを持っている社員は多数いましたが、一日おきに双方の家に平等に泊まり、平等に扱うのは大変だとぼやきを聞かされました。当然の事ながら家族を理由にした有給休暇申請を彼等は人一倍出していました。

サッダーム・フセインやオサマ・ビンラディンが未だ持って捕まらないのも部族単位でかばいあっているからで、徹底したローラー作戦がそろそろ必要です。ではまた、